

研究・調査報告書

報告書番号	担当
350	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Life events and alcohol consumption among mature adults: a longitudinal analysis. 縦断的解析による壮年期における生活上の出来事とアルコール消費との関係	
執筆者	
Perreira KM, Sloan FA.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol. 2001 Jul;62(4):501-8.	
キーワード	
高齢者、飲酒量、生活上の出来事、	
要 旨	
<p>目的</p> <p>健康や家庭、仕事に関連してのストレスに伴いアルコール消費がどのように変化するかを明らかにすること。</p> <p>方法</p> <p>ベースライン時に 51 歳から 61 歳であった 7731 名 (うち男性 3907 名) を対象に調査を行った。6 年間の重要な生活上の出来事と飲酒量の変化との関係について多項ロジット分析を用いて分析を行った。ストレスの多い生活上の出来事や性別、飲酒行動に対する問題との相互関係についても調査した。</p> <p>結果</p> <p>ほとんどの人 (約 68% の人) は 6 年間の調査期間を通してアルコール消費量に変化は認められなかった。入院や慢性症状の出現の際にはアルコール消費量は減少した。退職はアルコール消費量の増加と関係があった。配偶者の死亡では短期間ではあるが飲酒量の増加を認めた。結婚や離婚では飲酒量の増加と減少の両方が認められた。問題飲酒行動歴はある種の生活上の出来事 (例えば離婚や退職) と飲酒量の変化との関係に影響が認められた。性別によっても配偶者を失ったときの飲酒量の変化に差があった。</p> <p>結論</p> <p>問題飲酒歴や社会的支援、対処技能を調整しても飲酒行動の変化はいくつかの生活上の出来事の発生と関係があった。しかしこれらの関係の大きさは性別や問題飲酒歴によって様々であった。</p>	